

新
撰 小學修身書

文學社編纂
嘉言篇 二

東 京 圖 書 館			
			新書門
冊	號	架	部

K110.1
184
2

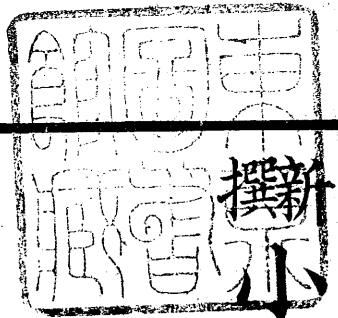
文學社編纂 嘉言篇

新撰 小學脩身書 全一十冊

東京大坂



文學社發兌



新撰 小學修身書卷之二

文學社編纂

第二章

○孝悌忠信は、身を立つる

大本なり、

省心
雜言

○孝徳天皇曰、己を正しくして後に人を正す己正しからずは何ぞ能く人を正さん、

○後漢光武帝曰、志ある者は事竟に成る、

○佐藤坦曰、真に大志あるものは克く小物を勤む、

○又曰、真に遠慮ある者は、克く細事を忽にせず、

○貝原篤信曰、君に仕つては、忠を盡して我が身を顧ること

と勿れ、

○國家の法令を慎み守りて、敢て犯すこと勿れ、是親に孝する一端なり、童子習

○伊藤長胤曰、人行義を修め、生産を治め、身体を保つ、

此の三の者、人道の因りて立つ所以なり、

○王守仁曰、志立たざる時は、天下に成るべき事なし、

○吾か能に誇るは耻なり、吾か不能を飾るも亦耻なり、

り、讀書
録

○喜ふ時の言は、多く信を
失ひ、怒る時の言は、多く体
を失ふ、傳家寶

○常盤貞尚曰、口に慎まざ
れば、禍の門となる、

○善を積む家には、必
餘慶あり、易經

○不善を積む家には、必
餘殃あり、同上

○其の親に事ふるを觀て、其
の君に事ふるを知る、古文經

○父母に孝なく、兄に悌な
きものは、萬卷の書を誦し、
多能多藝なりと雖、何の用
をか成さん、
日新館
童子訓

○徳川秀忠曰、善人と交れ
は、善ならず、悪人はなく、悪人と

居れば、悪ならず、善人はなく、

○今川貞世曰、己に勝る
友を好みて、己に若かさる
友を好むこと勿れ、

○人を責むる者は、交を
全くせず、自恕する者は、

過を改めず

省心
雜言

○孔丘曰、過ちては改むる

に憚ること勿れ

○賈誼曰、善は小なるも益

なりといふべからず、不善

は小なるも、傷なりと謂

ふべからず

○人相與に處れば、自然に

染習す

貞觀
政要

○朱熹曰、精神一たひ到ら

は、何事か成らさらん

○人一度して之を能くすれ

は己は之を百度す中庸

○朱熹曰謂ふこと勿れ今日
學はすとも來日ありと謂
ふこと勿れ今年學はすと
も來年ありと

○書を讀むは必專一に

一字を寫すは必敬む

一程董
學則

○少くして勤苦せされは

老いて必艱辛あり省心
雜言

○少くして勞に服すれば

老いて必ず安逸なり同上

○貝原篤信曰、萬の事初
に情れは後に功なり、
○年長する以て倍すれは
則父と一事へ、十年長すれ
は、則兄と一事ふ、
禮曲
○尊長者より物を賜ふ時

は、辭退すること勿れ、

小學
詩禮

○尊長者より問ふことあ
らば、顔を和らけて、實を以て
對へよ、喧なること勿れ、
童子

習

○兄及姉は、皆我か尊屬た

り、宜しく敬して怠ること
勿るべし、上全

○長者に道に逢ふ時、我車
馬等に乘らば、必下りて
禮を施すべし、上全

○佐藤坦曰、我恩を人に

施しては、忘るべし、我惠
みを人に受けては、忘るべ
からず、

○貝原篤信曰、人の飢ゑたる
を救ひ、人の病めるを助く
べし、

○又曰、人の害を除き人の利益を興すへし、
○程頤曰、學ぶ者は必ず師を求む、師を求むるに慎ますはあるべからず、

○貝原篤信曰、道を教へし

師は、其の恩最重し、君父と同一く、尊ふべし、
○又曰、技藝の師も、亦我に恩あり、敬重せずはあるべからず、

撰新小學修身書卷之二終

K1191

明治十五年十月五日版權免許
同十七年十二月出版

定價五錢

編纂兼
出版發兌

發賣

文學社

東京本町四丁目十六番地

文學社支店

大阪本町三丁目十六番地